

Uターン
松林嗣也さん
.....
会社員

御前崎という選択で良かった 仕事も私生活も満足している

松林嗣也さんは、御前崎で生まれ育ち、一度は進学のために県外へ出たものの地元に帰ってきて金融関係の仕事に従事しています。「大学に進学した時も卒業後は御前崎へ帰ってくるつもりでした。当然のように地元は好きだし、長男ということもあり、いずれは家を守っていくものだと考えていたんです」

27歳の時に結婚し、2人の子宝にも恵まれ充実した毎日を送る松林さん。現在の暮らしを振り返り「地元に住んでいることで、消防団や祭り、仕事関係の人のつながりがとても増えました。違う年齢層の人とも仲良くなり、プライベートも仕事も充実しています。

地元に帰ってきて良かったと思っ「ています」と笑顔を見せます。

さらに、2人の子どもを育てる松林さんは、「このまちは自然は豊かだし、子育て支援策だって他のまちより充実している」と御前崎は子育てするにも良い環境だと話します。

休日は、家族団らんや趣味のほか、消防団活動や地元のイベントへ参加する松林さん。地元から離れて暮らす人に対していつか戻ってきてほしいといいます。「若い人たちが少ないとまちに活気がなくなってしまうと思います。一人でもたくさんの方に御前崎で暮らす選択をしてほしい」と呼び掛けます。



Iターン
栗本めぐみさん
.....
イチゴ農家

農業するには最適地 夢をつかむための土壌がある

栗本めぐみさんは、静岡市出身で高校生の頃から「農業をやりたい」という夢があり、東京の農業大学へ進学しました。その後8年間、東京の青果物卸売会社や食品商社でマネジメント力やリスク管理など数字への考え方や知識を養いました。そして32歳の時、静岡県内で自立就農を目指す人を支援する「がんばる新農業人支援事業」を活用し、合戸でイチゴ農家としてスタートを切りました。

本市を選んだ理由は、日照時間が日本一長いということや土地の借り入れの価格が高くないこと、水の利用に困らないことだったという栗本さん。「御前崎は施設栽培をするには最高の

場所だと思えます」と太鼓判を押します。

栗本さんは起業する際、農家には自由な時間が少ないと思われていることから「新しいスタイルの農業を創り上げたい」と考えていました。そこで「イチゴ農家は収穫期間中に海外旅行にいけるのか」というテーマを自ら設定。仕事を効率化させたことで、繁忙期の1月下旬に夫婦そろって韓国旅行に出掛けることもできたといいます。

夢だった農家となり、現在の生活で感じるストレスはサラリーマン時代の10分の1だと話す栗本さん。今後は、農業にやりがいや幸福感を感じる経営者を増やしたいと意気込みます。

